

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（10月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、10月8日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を「低迷しているものの、持ち直しの動きが広がっている」として、前月までの表現を据え置きました。昨年12月からこの表現をしておりますので11カ月連続です。先月公表した短観結果にも表れていますように、企業の業況感は足もとまでは改善していますが、先行きに関しては慎重な見方が増えています。個別項目毎に仔細にみるとプラス、マイナス双方の動きが窺われます。

1. まず、プラスの動きから紹介します。

- (1) 住宅投資に関して、基調判断は変えていませんが、居住用の建築確認申請（床面積）が増加しています。
- (2) 水準としては低いのですが、雇用環境が改善しています。常用新規求人数が全体として増加傾向にあるほか、有効求人倍率も改善傾向にあります。

2. マイナスの動きは以下のとおりです。

- (1) 公共工事請負額の動きを踏まえ、公共投資の判断を従来の「減少している」から「大幅に減少している」に下方修正しました。
- (2) 生産について、海外経済の動向などを反映して「持ち直しの動きが広がっている」から「持ち直しの動きが鈍化している」に変更しました。

3. プラス、マイナス双方の動きが窺われる需要項目としては以下のとおりです。

- (1) 平成22年度の設備投資計画に関しては、先の短観結果を見る限り、上期・下期ともに前年同期を下回る結果となりました。当初、上期計画は前年同期を上回る計画でしたが、一部は上期から下期にずれ込みました。非居住用の建築確認申請（床面積）は増加に転じています。
- (2) 個人消費についても、各種政策効果や猛暑の影響もあり、8月頃までは上向いていましたが、足もところこうした影響の反動が出始めています。先行きについては、慎重に見極めていく必要があるようです。

さて、私こと旭川事務所長として3年3カ月にわたり旭川に勤務しておりましたが、このたび本店情報サービス局へ異動することになりました。後任の旭川事務所長には、本店調査統計局から荒木光二郎が就任します。引き続き、どうぞよろしく申し上げます。

平成22年10月8日

尾家 啓之